



消火器の準備が必要です！

火災予防条例の改正により、平成26年8月1日から屋外において、祭礼、縁日、花火大会、展示会など、不特定多数の者の集合する催しを行う際で、対象の火気器具等を使用する場合は、消火器の準備が必要になります。

対象となる催しとは？

神社などでのお祭り、商店街のイベント、花火大会、市民祭・区民祭など公的機関主催のイベント、学園祭、自治会・町内会で行うイベントなど**不特定多数の者が出入りする催し**。

※ 近親者や個人的なつながりによる催し、相互に面識のある方のみが参加する催しなどは対象外。



対象の火気器具とは？



ガスコンロ



業務用グリドル



発電機

その他、移動式ストーブ、カセットコンロ、炭焼器、ホットプレート等があります。

準備する消火器は？

消火器は「**能力単位**」が標記されたものをご準備ください。

※ エアゾール式の消火具（消火スプレー）のタイプや住宅用消火器は該当しませんのでご注意ください。



仕様	
総重量	3.36 kg
薬剤重量	1.5 kg
ガス重量	3.0 kg
試験圧力値	23.5 kgf/cm ²
放射時間(20°C)	約 13 S
放射距離(20°C)	3 ~ 6 m
使用温度範囲	-20 ~ +40°C
型式番号	消第58~191~2号
製造年	1992
製造番号	26533
能力単位	1-B-3-C

お問い合わせ先

川崎市消防局予防部予防課 (TEL 223-2703)
又は最寄りの消防署予防課まで

- ◆ 臨港消防署 TEL 299-0119
- ◆ 川崎消防署 TEL 223-0119
- ◆ 幸消防署 TEL 511-0119
- ◆ 中原消防署 TEL 411-0119

- ◆ 高津消防署 TEL 811-0119
- ◆ 宮前消防署 TEL 852-0119
- ◆ 多摩消防署 TEL 933-0119
- ◆ 麻生消防署 TEL 951-0119



川崎市消防局
イメージキャラクター 太助

ガソリン携行缶 の取扱いに注意!

ガソリンの危険性

ガソリンは気温が -40°C でも気化し、小さな火源でも引火し、**爆発的に燃焼**します。



容器について

ガソリンを入れる容器は、消防法令により一定の強度のある材質を使用することと、容量が制限されています。

特に灯油用ポリエチレンかんにガソリンを入れることは、**非常に危険**です。

携行缶は、「試験確認済証」のラベルが付いたものを使用しましょう。



注意表示について

ガソリンの入った携行缶を使用するにあたり、注油口付近の目立つ場所に判読しやすい大きさに**注意表示**をシール等で作成し、貼り付けましょう。

表示内容やラベルのデザインは右の例を参考にしてください。

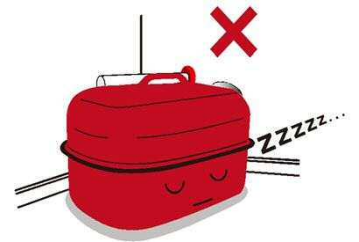
【注意表示の例】



保管について

ガソリンは揮発性が極めて高く、火が着くと爆発的に燃焼するため、ガソリンを容器に入れて保管することは極力控えて下さい。

保管する際は、直射日光の当たる場所や高温の場所で保管しないこと。**火気等から離して保管**して下さい。



発電機等への給油方法

携行缶から発電機等へ給油する際は、以下の点に注意して下さい。

- ・周囲の安全を確認すること。
- ・フタを開ける前に**エンジン**（発電機等）を**停止**すること。
- ・フタを開ける前に**必ずエア抜き**すること。
- ・ガソリンの噴出に注意すること。



備考



川崎市消防局
イメージキャラクター
太助